

発行/財団法人日本防火協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16

(日本消防会館内)

TEL 03(3591)7121

FAX 03(3591)7130

http://www.n-bouka.or.jp

(季刊・年4回発行)

印刷/株式会社近代消防社

少年消防クラブニュース

本号では、地域の中で少年消防の指導に当たつておられる消防団員及び全校生徒を対象に防災教育を行なう中学校の校長先生から、少年消防の育成にかける思いや活動状況について寄稿いただきました。

地域と消防少年団



東京都 日本橋消防少年団

指導者(消防団員) 美添 哲彦



知識や技能を伝えたい



私は、地域の健全な利益増進と損害防止に少しでも役立ちたく、東京都心、特に中央区日本橋地域においても各種の地域組織において活動させていただいているため、負担に感じるところは少なく、一生懸命に取り組んでいるつもりです。これらの地域活動の一環として日本橋消防少年団に所属しています。指導者と一緒に立場で、まだ入団2年目で、私自身も少年団員達と共に学んでいく立場にあると言えます。とは言ふて、消防団に所属している種類程度は取得しているた

全般生徒がメンバー



富山県 富山市立城山中学校少年消防クラブ

無理のない実践的な活動を目指して



「防火防災に関する作文」「防火ポスター」コンクール開催

生活協同組合 全日本消防人共済会では、小中学生を対象に毎年2つのコンクールを実施しています。最優秀賞受賞者には、5万円相当の記念品を贈呈するとともに、12月末に日本消防会館(東京都港区)へご招待のうえ、表彰式を行います。ポスターの部の最優秀作品については、全国統一防火標語を文字入れして防火ポスターとして、また作文の部については、佳作以上の作品をとりまとめて作文集として、それぞれ全国に配布します。

詳細につきましては、日本消防協会のホームページ(<http://www.nissho.or.jp>)をご覧ください。多数のご応募をお待ちしています。

(2面に続く)



り指導していきます。なお、去年、少年団用にスタンダード訓練セットが供与されたことで、今後は放水の機会が増える見込みです。

地域への帰属意識や愛着を

日本橋地域は日本橋川、日本橋、高速道路、地下鉄、周囲の老舗、背景の超高層ビル群といった、歴史の積み重なりを感じることの出来る場所でもあります。私は、少年団員達が橋洗いを通して日本橋に親しみ、大切にすることで、次に生まれよいと思います。

橋洗いは、毎年7月に日本橋地域の中心的シンボルである日本橋を綺麗に洗浄するために開催されています。

地元住民、団体、企業、行政が一体となって実施している中で消防少年団も参

加しています。橋洗いは、基本的に消防団の放水とデッキフランジで橋を磨いてい

ます。たまたま消防団員の可搬ポンプを活用して、少年団員達

が放水訓練を行ったりして

います。ただ、少年団員達は、絶好の水浴びの場として普段に交通少年団と一緒に入ってプレーにしてしまいました(以前からプレーになら、こういうのもありかと思ひます。一方で、危険なことがあります)。消防用の資機材に入つてプレーにしてしまった。消防団員の可搬ポンプは、富山平野を東西に分ける呂羽丘陵の南端にあります。消防団員の可搬ポンプは、富山市婦中町に位置する城山中学校の全校生徒352名がメンバーとなっています。近年は、石川・新潟の両県で地震による大きな被害も発生しているが、富山市での被害は皆無であった。また、台風が直撃する

ことがないようにならぬように、富山県は火災発生率

が全国最低なことから、校

内の火災も年間に数件と

少ない。このように災害が

高いとはいえない地域で

防災意識を高め、災害への対

応能力を高めるために、中

学校としてモデル少年消防

クラブの選定を受けること

にした。また、活動は2年間のモデル校の選定がなく

最近、校区の中央に呉羽山断層帯があり、今後30年の間にマグニチュード7.3程度の地震の発生する確率が高いことが予想された。そこで、全校生徒の防災意識を高め、災害への対応力を高めるために、中学校としてモデル少年消防

クラブの選定を受けること

にした。また、活動は2年間のモデル校の選定がなく

なっても継続できるように配慮している。

防災教育の取組

①実践的な避難訓練



従来は火災を想定した避難訓練のみを行っていた避難訓練のものに変更して年間3回行っている。各回の主目的は、地震と火災を想定した1回目は地震発生時の自分自身は少年団員達、子供達に指導をするのは上手くはないかも知れませんが、精一杯、全力を尽くす供達で活動しています。消防少年団などの子供達と関わる活動においては、集団秩序を保たせつつ、彼らの目線でコミュニケーションを取りながら、楽しく参加しやすい雰囲気を作り、信頼関係を築き、必要な助言をしていくというような指導をしていきたいと考えます。

消防署の全面的な協力を得ながら実践的な避難訓練を行っている。



(1面から続き)

②消防署体験

(1面から続き)
②消防署体験

富山県では、県内のすべての中学校2年生を対象に、1週間、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加する「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」事業を実施している。

この事業を活用して、希望する生徒を校区内にある消防署へ派遣し、5日間職場体験活動をさせることでリーダー育成をしている。平成11年度は4名の生徒が婦中消防署を希望し、消防署員の指導のもと体力養成や小型動力ポンプを使った揚水作業体験、ホース延長訓練、放水訓練、心肺蘇生法、消火栓確認業務等を体験してきた。その成果は、避難訓練で行う消火訓練で披露したり、授業での心肺蘇生法の学習の際に補助をしたり、地域の防災訓練への参加などで生かしている。

③授業でAED講習

保健体育の授業で中学3年生全員と教員を対象に、AED操作を中心とした心肺蘇生法を学ぶ救命救急訓練を実施している。消防署から人形模型とAED、講師を派遣してもらい、訓練終了時には普通救命講習修了証を交付してもらっている。

④地域の防災訓練に参加

消防署で体験活動してきた生徒を中心に、地域で行われる防災訓練に積極的に参加させている。校区の神保地区で3月18日に行われた春の総合防災訓練には、

十数名の生徒が消火栓を利用した放水訓練の模範演技の披露と被災住人の搬送作業に参加した。



夏季キャンプに集合

活動、消防機器講習会等を体験してきた。その成果は、避難訓練で行う消火訓練で披露したり、授業での心肺蘇生法の学習の際に補助をしたり、地域の防災訓練への参加などで生かしている。

③授業でAED講習

保健体育の授業で中学3年生全員と教員を対象に、AED操作を中心とした心肺蘇生法を学ぶ救命救急訓練を実施している。消防署から人形模型とAED、講

(1面から続き)
②消防署体験

富山県では、県内のすべての中学2年生を対象に、1週間、学校外で職場体験活動や福祉・ボランティア活動等に参加する「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」事業を実施している。

この事業を活用して、希望する生徒を校区内にある消防署へ派遣し、5日間職場体験活動をさせることでリーダー育成をしている。平成11年度は4名の生徒が婦中消防署を希望し、消防署員の指導のもと体力養成や小型動力ポンプを使った揚水作業体験、ホース延長訓練、放水訓練、心肺蘇生法、消防全般知識等を体

十数名の生徒が消火栓を利
用した放水訓練の模範演技
の披露と被災住人の搬送作
業に参加した。

れるようにするために、安全確保を目的に現在実施している避難訓練を発展させ、実際に災害が起きた場合に役立つ実践的な訓練に見直していくことや、地域の消防署や消防団、町内会等の各関係団体と連携した防災訓練や講習会を計画するなど、今後とも無理なく様々な訓練を実施していくべきだ。

域に貢献する意識を育む良い機会である。レクリエーション活動も多くのクラブが実施している。夏季キャンプや野外でのゲームなど、みんなで楽しく活動することで、クラブ員の仲間意識を高めることができるのである。

このように、各地の少年消防クラブでは様々な活動が行われているが、そこに

A group of young boys in orange and blue uniforms are standing in a row, saluting. They are in a room with white walls and windows. The boy on the far left is wearing a cap and has his hand on his head. The other boys are also in caps and are saluting with their right hands.



少年消防クラブの子供たち

「」を立ち上げた消防団班長の澤田浩文氏は、クラブへの参加には保護者の理解が不可欠と考え、発足当初に保護者の全員に手紙を出し協力を求めたという。その甲斐あって、初年度から地域の防災総合訓練への参加や1泊の防災キャンプを実施することができた。

昭和63年設立の札幌市「川沿少年消防クラブ」の指導部長山崎英雄氏は、町内会連合会の役員でもある。子供たちの指導に当たり、「一人はみんなのために、みんなは一人のために」をクラブのモットーに、活動の中で相手の気持ちを思いやる心を育てたいと言ふ。また、平成23年に高知県黒潮町で、既存の子供会を母体に「伊田少年消防クラ

域に貢献する意識を育む良い機会である。レクリエーション活動も多くのクラブが実施している。夏季キャンプや野外でのゲームなど、みんなで楽しく活動することで、クラブ員の仲間意識を高めることができるのである。

このように、各地の少年消防クラブでは様々な活動が行われているが、そこに必ず地域の人々との触れ合いがある。年齢の異なる子供たちが、少年消防クラブの活動を通して集い、ともに学び、大人に混じって防災行事やボランティア活動に参加する。地域全体が一つの教室なのである。

子を切々と述べられた。
それぞれの地域の熱心な
指導者のリードによって、
少年消防クラブの子供たち
が大きな成長を見せてい
る。

少年消防クラブ指導者研修会において、東日本大震災に見舞われた気仙沼市「陸上中少年消防クラブ」の指導者大野博之先生が、生徒とともに当時の体験を報告しました。避難所となつた同校では、炊き出しの配膳、四洗い、トイレの水くみなど、地域の方々と協力し助け合うことができたという。毎年、気仙沼・本吉庄域消防本部の協力により実施し、消防団や自治会も参加する総合防災訓練や普段の防災学習で指導してきたことが活かされたのですが驚きました」と当時の様子が語られました。



『本紙の既刊号は、日本陸
火協会のホームページ
(www.n-bouka.or.jp)
からご覧いただいくことが
できます。』

A photograph showing a group of firefighters in white uniforms and caps using a hose to spray water onto a wet street. The fire truck is red and positioned behind them. In the background, there are buildings, including one with a sign that partially reads "SABRE".

中でも、各種訓練の復習として競い合ったファイヤーマッチでは、班対抗で戦き結びを作成、バトン代わりのホースを担いで、習得した全てを出し切り奮闘していました。

支署へ向かいました。そこでは、車両見学と50ミリによる放水訓練を実施しました。「放水はじめの掛け声でホースにかかる水圧に驚いた様子を見せていましたが、標的目掛け心不乱に放水し、標的を落とした後の一連の「放水やめ」の呼称はとても満足げに聞こえました。

少年消防クラブ

ラブの活動



少年消防クラブの活動

北見地区消防組合消防本部予防課 黒澤ちひろ

